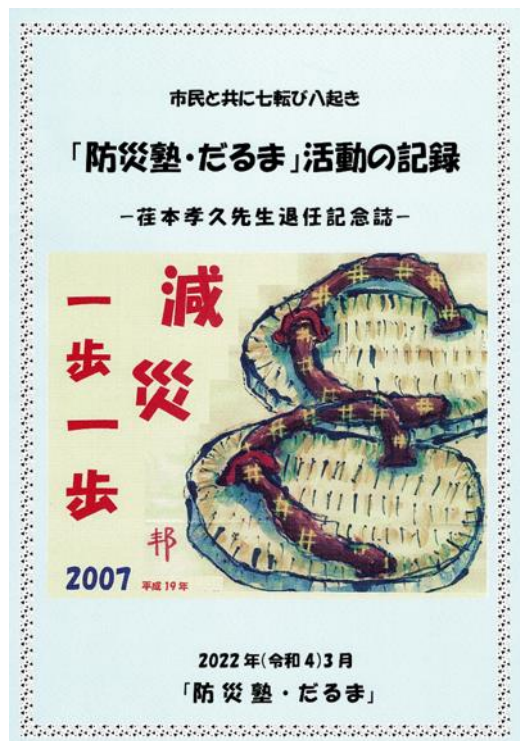




「防災塾・だるま」通信

2022年4月号



2月18日完成した記念誌
表紙イラスト：池田邦昭 相談役

盛会だった2月18日Dサロン主催「談義の会」
榎原 賢二氏講演 「総合治水から流域治水へ」

発行者 防災塾・だるま

CONTENTS

- 1 塾長挨拶 荏本先生塾長退任記念講演会誌発行
新しい領域をひらいたDサロン(時事防災課題)主催談義の会で協議深まる
本年度の防災サロン活動を振り返って (添付 防災関係者への謹呈文)
鷲山龍太郎 P2
- 2 第185回「防災まちづくり談義の会」レポート 「総合治水から流域治水へ」
～市街化や気象変動が引き起こす洪水等から命を守る流域治水対策 一級河川鶴見川について～
講師：榎原 賢二氏 国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所 事業対策官 田中 晃 P4
- 3 第184回「防災まちづくり談義の会」各サロン意見交換集約 [\(別紙\)](#) まとめ 樋口 誠 P6
(1年間のサロン活動がまとめられています)
- 6 名誉塾長の部屋 今回は荏本先生が発表した最新の論文を紹介させていただきます。(別紙)
(資料リンク [\(別紙\)](#)) [荏本孝久「神大45年間の地震工学研究と都市防災への展開」](#)
神奈川大学工学研究所発行「[工学研究](#)」No.5 2022年3月 pp.113-116に掲載されています。



「防災塾・だるま」通信

2022年4月号

発行者 防災塾・だるま

荏本先生塾長退任記念誌発行（2月18日）

塾長 鷲山龍太郎

前のご報告したように昨年12月荏本先生塾長退任記念講演会が盛会のうちに開催されました。2月18日の定例会席上において、荏本先生退任記念誌「市民とともに七転び八起き 防災塾・だるま活動の記録」完成の報告が行われました。会員代表として塾長鷲山から荏本名誉塾長に完成した記念誌を捧げ、荏本先生からは田中晃編集委員長はじめ会員有志の皆様への感謝の言葉をいただきました。



4月15日には、杉原英和様のコーディネートで、荏本先生と杉原様、鷲山とで、神奈川県新庁舎を訪問し、神奈川県くらし安全局長、危機管理防災課長、くらし安全防災局防災部副課長にごあいさつと記念誌の謹呈をすることができました。今後、会員皆様、また、会員の皆様から防災に携わる各方面の皆様への謹呈も進めていただきますようお願いいたします。

○会員の皆様には、定例会・談義の会、または通常総会等の折にお渡ししております。

○郵送をご希望の方は、2022年度会費に郵送費250円を追加してご送金ください。

●新領域をひらいたDサロン(時事防災課題)主催談義の会で協議深まる(2月18日)

次の記録にもありますように、2022年2月18日、今年度最後の「談義の会」は、講師に国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所 事業対策官 榎原 賢二氏をお招きし、「総合治水から流域治水へ」～市街化や気象変動が引き起こす洪水等から命を守る流域治水対策 一級河川鶴見川について～ご講演をいただきました。

新体制で進んできた2021年度最後の談義の会。「時事防災課題」という新しい領域に踏み込み、今回の談義の会を計画されてきた樋口リーダーはじめ、Dサロンの皆様に、敬意を表したいと思います。協議を重ねて、今回の講師選定となり、事前の質問の共有もして、協議が深まる談義の会となりました。

●本年度の防災サロン活動を振り返って

1年間のサロンによる取組を経て、それぞれのサロンは、より学びたいこと、自ら発信したいことをそれぞれしっかりともたれていることは、サロン活動の成果ではないかと思えます。

今後の課題として、「だるまの研究成果を市民の防災活動に役立てる」活動をするためには、だるまとしての理念、理論、提案の共有が必要かと思えます。

サロンの共有された理念や方向性がある、「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」のカリキュラム構築の根拠になります。

だるま10年記念誌：荏本先生の言葉（活動10年を振り返って思う事）には、「地域が団結することと、行政機関との相互の協力・連携体制が重要」という具体的な理念が見られます。

「防災まちづくり」の具体像と、具体化の道筋を各サロンで研究し、相互にそれが統合できればと願うところです。

次ページは記念誌を「防災に携わる皆様」に謹呈する場合の挨拶文です。関係者謹呈の場合に添えてください。

2022年4月1日

防災に携わる皆様 各位

「防災塾・だるま」
塾長 鷺山龍太郎
記念誌編集委員会
委員長 田中 晃

「防災塾・だるま」荏本孝久先生塾長退任記念誌謹呈のご挨拶

拝啓

日頃より本会活動へのご理解とお見守りを賜り感謝申し上げます。

本会は、阪神淡路大震災から10年を経た2006年に、神奈川大学工学部建築学科荏本孝久教授が講義した神奈川区主催の生涯学習講座「地域防災まちづくり講座」に学んだ横浜市在住の住民が中心となって立ち上げた任意団体です。

荏本塾長から学んだ理念は一貫して本会名称のもととなる「市民と共に七転び八起き」でした。この理念をもとに、行政、研究者、地域防災実践者等多くの皆様のご協力をいただいて15年間に及んで荏本塾長が目指す、防災情報の共有化と人的ネットワークの構築を推進してまいりました。

本会創始者である荏本塾長は2022年3月に神奈川大学を退職する前年の2021年5月をもって本会塾長を退任し、名誉塾長に就任しました。

この機に、荏本塾長の理念と本会の足跡を有形のものとしたいという会員の思いから本誌の編集が進められ、この度発行に至ることができました。

ここに、本会活動を温かくお見守りいただいた防災関係の皆様にご感謝を込めて本誌を謹呈させていただきたく存じます。

引き続き、本会活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

日 時:2022 年 2 月 18 日(金) 14:00-15:30 場所:さくらリビング 第 2 研修室他
 ◆ 主 催:防災塾・だるま 総括運営:鷲山 総司会:山田(美) 記録:田中(晃)
 ◆ 談義の会参加者:23 名 (会場 18 名(会員 18 名)、ZOOM:5 名) (敬称略)
 話題:「総合治水から流域治水へ」

～市街化や気象変動が引き起こす洪水等から命を守る流域治水対策 一級河川鶴見川について～
 講師: 榎原 賢二氏 国土交通省関東地方整備局 京浜河川事務所 事業対策官

流域治水の概要 (配布チラシから転記)
 流域治水とは、気象変動の結果もたらされる水災害の激甚化・頻発化等のリスクを踏まえ、堤防の整備、ダム建設・再生などの対策を強化するとともに、集水域(雨水が河川に流入する地域)から氾濫域(河川等の氾濫により浸水が想定される地域)にわたり流域の総ての関係者が協力する、総合的な水災害対策を行う考え方であり、全国から注目されています。
 今回は、鶴見川での取り組みを紹介するとともに、気象変動への対応(流域治水)について勉強しましょう。



■ 榎原 賢二氏講演「総合治水から流域治水へ」

- 鶴見川: 東京都町田市の田中谷戸(標高 170m)に源を発し、多摩丘陵から東京湾に注ぐ一級河川。流域面積 235k m²、幹線流路延長 42.5km、流域内人口 199 万人(令和 2 年)流域内人口密度約 8,200 人/k m²全国第 7 河床勾配約恩田川合流点迄 約 1/250、下流約 1/1,000
- 総合治水: 流域基本流水(河川整備計画時)全体 2,110 m³/S 河川対策(1,860 m³/s 河道整備 1,500、遊水地 360)、流域対策(防災調整池等 220)、下水道対策(雨水貯留管 30)
- 鶴見川の洪水への取り組み経過: 講演内容から 80 年の歴史を次ページにまとめました。
- 主な説明



浸水実績図 近年、雨の降り方が変化 鶴見川多目的遊水地の貯留 河道の整備(築堤・浚渫)
 ● 鶴見川流域水マスタープラン策定: 平成 16 年(2004)流域統合水マネジメント計画、同 27 年改訂 水環境を健全化するための 5 つの流域統合水マネジメント計画 *わたしでもできる「水マス」!

1. 洪水時水マネジメント: 洪水に強い総合治水	2. 平常時水マネジメント: 清らかなで豊かな川	3. 自然環境マネジメント: 自然地の保水機能	4. 震災・火災時マネジメント: 河川と町の連携	5. 水辺ふれあいマネジメント: 親水
--------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------	---------------------

- Q&A:
- Q: 鶴見川の総合治水対策は、全国に先駆けて行ってきた先進事例なのか。
 - A: その通り。流域治水対策という形で進化させながら、都市部から全国に広げていく(国の方針)。
 - Q: これまでの治水努力により、洪水は殆ど起らなくなったが、気候変動での危機感はあるか?
 - A: 近年の洪水は、内水氾濫。ハードでの対策(河道の拡張、下水道整備やポンプ設備の増強等)は続けるが、河道目標水量(1,500 m³/S)を越える水には、流域での対策(川への流入量の制限)が必要。
 - Q: 流域治水では、行政(国・県・市)やインフラ整備団体・気象庁等との連携が必要になるか?
 - A: 鶴見川では協議体と作って水マスタープランを進めてきた。役割分担は、これから詰めていく。
 - Q: 鶴見川の治水計画における雨量基準は、狩野川台風(約 340mm/2日)をベースにしているのか。
 - A: 近年の気候変動により、792mm/2日を考えている。
 - Q: 異常気象による豪雨時の水位予測システムは。
 - A: 水位予測は出しているが、異常気象を考慮したシステム構築はこれからになる。
 - Q: 調整池(*)と調節池(★)の違いについて、*は民間の管理で、★は行政による管理で良いか。
 - A: 基本的にはそうだが、例外もある。UR で開発した調整池の管理を横浜市で管理する場合もある。

■**総括**: 鶴見川の「総合治水から流域治水」に取り組んできた経過が説明され、今後都市部から全国に展開されるモデルになると思われます。日産スタジアムを含めた鶴見川多目的遊水地、防災調整池約 5,000 基、雨水貯留管など、常識では考えられなかった思い切った発想が生きています。

●**鶴見川治水対策の経緯**

地域の変化と被害	現象と対応	制度の変遷と水流量の変化
昭和 33 年(1958) 市街化率 約 10% 人口約 45 万人 洪水到達時間 10 時間 昭和 42 年 鶴見川が一級水系指定、直轄管理始まる 昭和 50 年ころまでに 洪水到達時間は大幅縮小 昭和 50 年(1975) 市街化率 約 60% 人口約 120 万人 洪水到着時間 1~3 時間 平成元年(2019) 新横浜周辺地区の開発 平成 16 年 台風 22 号による被災(内水被害) 平成 19 年以降環境基準満足 平成 25 年(2013) 市街化率 約 86% 人口約 194 万人 令和 2 年(2020) 人口約 199 万人 近年、毎年のように全国各地で自然災害が頻発 京浜工業地帯の発展(昭和 30 年代以降)、港北ニュータウンの開発(50 年代)と交通網の整備で、流域が市街化	昭和 13 年 6 月 台風で被害 昭和 33 年 狩野川台風 被災家屋約 20 千戸以上 昭和 41 年 台風 4 号 被災家屋約 18 千戸 昭和 51 年 台風 17 号 被災家屋約 3.9 千戸 昭和 57 年 台風 18 号 被災家屋約 2.7 千戸 平成 2 年 梅田川遊水地運用開始 平成 15 年 鶴見川多目的遊水地運用開始 今まで 22 回の溢水調節 平成 20 年川和遊水地運用開始 令和元年調整池 5,000 基、約 310 万 ^m 洪水調節施設 川和遊水地約 12 万 ^m 鶴見川多目的遊水地約 390 万 ^m 雨水貯留管整備:4 か所 合計 89 万 ^m 昭和 57 年を最後に被害が起きていない。 平成 15 年に鶴見川多目的遊水地運用開始	昭和 14 年 改修に着手 計画高水流量 650 万 ^m 末吉橋 昭和 43 年 鶴見川水系工事实施 基本計画 計画高水流量 900 万 ^m 末吉橋 昭和 49 年 基本計画改定 ピーク流量 2,300 万 ^m 末吉橋 計画高水流量 1,800 万 ^m 末吉橋 昭和 55 年 鶴見川流域総合治水対策協議会が発足 平成 6 年 基本計画改定 ピーク流量 2,600 万 ^m 末吉橋 計画高水流量 1,800 万 ^m 末吉橋 平成 16 年「鶴見川水系水マスタープラン」策定 平成 17 年 基本計画改定 ピーク流量 2,600 万 ^m 末吉橋 計画高水流量 1,800 万 ^m 末吉橋 平成 19 年 鶴見川水系河川整備計画 河川目標流量 1,500 万 ^m 末吉橋 平成 27 年「鶴見川水系水マスタープラン」改定 流域治水を全国の河川に拡大 昭和 14 年の改修着手以来 80 年を超えている。水流量はピーク想定で 3 倍を超え、先人たちの先導でここまで来た

A サロン

- ・鶴見川流域の治水対策は参考になった。
小田原の酒匂川は 2 級河川ですが流域治水プロジェクトの対象河川に指定されたので、今後はハード・ソフト一体の事前対策を進めることとなります。
氾濫を防ぐ対策・減らす対策・被害を減少させる対策などは時間がかかりそうです。
- ・鶴見川は総合治水から流域治水を進めると説明されていたが、従来から流域治水対策を実施していたとっていたので、今後具体的にどんなことをしていくのか見ていきたい。
流域のあらゆる既存施設の活用とはどうするのか、リスクの低いエリアへの誘導とは危険の浸水エリアの住民に移転を促すのか等。
- ・鶴見川の洪水は計画規模 405mm・最大規模 792mm で整備されているそうですが、流域面積が広いのでそれ以下の雨量で氾濫すると思われる。
- ・鶴見川の流域の市街化がかなり進んでいるので、治水対策を推進するには流域住民の協力を得るのが厳しいと思われる。

B サロン

- ・鶴見川が流域治水の先進的な取り組みで 2007 年くらいから洪水の被害がとても軽減しているということでその他の河川でなぜ流域治水の取り組みが進まないのかをもっと知りたかった。
- ・最後に、見せていただいたビデオはわかりやすかったが、質疑応答でも発表があったように良いことばかり強調すると油断が生じる。地球温暖化の影響で想定外の豪雨が増えそれに耐えられるのか心配。
- ・河川の近くに住む住民にとっての寄り添う対策が必要でこれからも川のそばの危険な地域に住む人も増えていくので住民への流域治水の周知が必要。
- ・東日本大震災の時、津波が川を遡上した様子等をみると山の整備や流木の対策が大事だと思う。
- ・災害対策はその地域ごとの特徴が違うので鶴見川以外の川の事情や対策は小さな河川も含めてもっと進むように法的にも整備が大事になるのでは。

C サロン

- ・レベルが高い専門的な話で勉強になった。
- ・治水対策の徹底への理解と、警戒心の両方を育てるのが課題。
- ・多摩川他、都市河川で対策が遅れている実態がある。
- ・D サロンの取組は、画期的で良い。

D サロン

- ・鶴見川の治水は、これまでの洪水対策中心から、流域に暮らす関係者が一体となった流域の保全(環境や暮らし方の見直しを含む総合的な対策)へと国が舵を切ったことが、説明された。
- ・河川で処理できる水量には限りがあり、流域に暮らす一人一人が水の河川への流出抑制に努力すべきだという事が、分かった。
- ・「各家庭で出来る水マス」は、身近なことから始められそうだ。
- ・川の利用について、東京では帰宅困難者や物資の輸送を視野に入れた訓練がされている。

2022年4月23日

「防災塾・だるま」会員各位

「防災塾・だるま」
塾長 鷲山龍太郎

2022年度「防災塾・だるま」通常総会開催のご案内

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本会は 2021 年度、新時代に対応できるように新たな歩みに踏み出しました。その一年を振り返り、2022 年度を展望するために通常総会を開催いたします。

新年度の方向性について、忌憚のない協議の輪にご参画いただきますようご案内申し上げます。

1 日時 2022 年 5 月 26 日(木)13:30～16:45

第一部 13:30～14:30 通常総会

第二部 15:00～16:15 基調講演

第三部 16:15～16:45 サロン顔合わせ

2 会場 さくらリビング 桜木町ぴおシティ 6 階 第一研修室 Zoom 併用
(Zoom 設定は前日に会員配信します。)

3 通常総会議題 (議案書は 5 月 16 日より、本会 HP で公開いたします。)

第 1 号議案:2021 年度活動報告について

第 2 号議案:2021 年度収支決算及び会計監査について

第 3 号議案:「防災塾・だるま規約」改訂について

第 4 号議案:2022 年度活動方針・活動計画について 第 5 号議案:2022 年度収支予算について

第 6 号議案:「防災塾・だるま」第 14 期役員について

4 基調講演内容 (チラシは本会 HP から 5 月に公開いたします)

(1)講師 東京大学生産技術研究所 教授 加藤孝明 氏

(2)演題「地区防災計画制度の創設と、現状・課題・展望」(仮題)

5 サロン打合せ内容 ・自己紹介

・本日の講演から学んだこと感想 ・考察 ・次回サロン開催予定確認

6 「荏本孝久先生退任記念誌」の配付について

○通常総会会場にて、会員の皆様に総会会場にて配付いたします。

○郵送をご希望の方は 2022 年度の会費に、郵送料 250 円を加えてお送りください。

○関係者に謹呈するために、必要部数がある方は、事前に早川雅子理事までお知らせください。